横越町議会 第三回臨時議会開催

横越町議会第三回臨時議会が、七月二十八日開催されました。

臨時議会に提出された二議案は、原案どおり可決されました。

なお、二議案については、次のとおりです。

■平成九年度横越町国民健康保険特別会計補正予算

療養費返還金として三八六万二千円と、予備費として五、二五六万九千円を補正したものです。

■平成九年度横越町下水道事業特別会計補正予算

公営企業金融公庫未償還残高に係る繰上償還金一、三四一万円の借換えを補正したものです。

夏の交通事故防止運動

～川根谷内で街頭指導所開設～

夏の交通事故防止運動が八月一日から十日まで、「シートベルト着用の徹底」「若者の交通事故防止」「高齢者の交通事故防止」を運動の重点として県下一斉に行われました。

期間初日の八月一日、町ではこの運動の一環として、川根谷内の国道沿いで街頭指導所を開設しました。

指導所では、浅見町長をはじめ、新潟南警察署の交通課長や交通安全協会、交通安全指導員、ライオンズクラブなど約四十名が参加。通行する車に一台一台止まってもらい、ドライバーに「交通事故に気をつけてください」などと声をかけながら、交通安全を呼びかけたチラシとともに交通安全母の会が作った手芸のチューリップやタオルなどを手渡し、夏の日差しが照りつける中、交通事故防止を呼びかけていました。

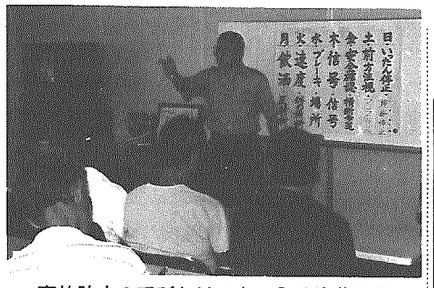
街頭指導所で事故防止を呼びかける町長

～管工事業協同組合の関係者対象に交通安全セミナー開催～

七月二十五日、横越町管工事業協同組合主催による交通安全セミナーが、京ヶ瀬村の伊藤工業を会場に開催されました。

このセミナーは、横越町管工事業協同組合員の会社及び社員の交通安全知識の高揚と交通事故防止の徹底を図ることを目的として開催され、はじめに伊藤組合長より「車社会の中で事故を起こさないように気を付けていると思いますが、事故防止に寄与していただきたい」とあいさつ。続いて講師として招かれた新潟南警察署の後藤交通課長は「飲酒・速度・ブレーキ・信号・安全確認・前方注視・いったん停止の七つを常に意識して、事故を起こさないようにしてください」と呼びかけました。また、管工事作業中においても、単純なミスが重大な交通事故につながることがあるといくつかの事例を挙げながら指摘。集まったおよそ二十五人の組合関係者は、真剣に聞き入っていました。

おわりに、「シートベルト完全着用と飲酒運転の根絶決議」が読み上げられ、伊藤組合長から後藤課長へ決議文が手渡されました。



事故防止の呼びかけに力の入る後藤課長

祝長寿 敬老会

9月15日(敬老の日)

今年も次の日程で敬老会を開催しますので、たくさんの出席をお待ちしております。

▼日時　九月十五日（敬老の日）　午前十時から

▼会場

・横越会場（横越小学校）

・沢海会場（横越町農村環境改善センター）

・木津会場（木津農業構造改善センター）

・二本木会場（二本木公会堂）

・小杉会場（小杉コミュニティセンター）

平成9年度　長寿ベスト10

番号	地区	氏名	歳
1	焼山	井口藤三郎	97
2	小杉下	渡邉キヨ	97
3	二本木中	井越ヨシノ	97
4	沢海中	田中ヨシミ	96
5	小杉上	宮嶋英作	96
6	沢海中	五十嵐リカ	95
7	沢海下	角田キソノ	95
8	横越上	五十嵐定平	95
9	沢海中	渋谷ミイ	95
10	二本木上	久保田貞次	94

平成9年7月3日現在

秋の全国交通安全運動
9月21日～9月30日

夕暮れは　気くばり　目くばり　思いやり

町制施行からまもなく1年 横越町誕生ビデオ発売

～多くの方の購入をお待ちしています～

昨年の11月1日に「町制施行」して以来まもなく1年を迎えようとしています。

町では、歴史的な横越町の誕生にあわせて「ひかり輝く里 横越町誕生」と題した記録ビデオ（45分）を制作しました。

町にいたるまでの過程や、町の美しい自然、横越町に暮らす住民の方々の声など盛り沢山の内容を収録したこのビデオを、ご希望の方に次のとおり販売します。

ぜひ、この機会にお買い求めになり、横越町の素晴らしさを再確認してはいかがでしょうか。

○販売価格　1本2,000円（消費税含む）

○注文受付　企画財政課で9月16日（火）まで電話にて受付

○引渡　10月1日以降企画財政課にて現金と引換え

○問い合わせ　企画財政課　☎385－2111

わたしの主張，97 三市中蒲原地区大会へ 今井奈緒美さん出場

八月二十一日、新津市視聴覚センターで「わたしの主張，97三市中蒲原地区大会」が開催されました。

大会では、横越町を含む七市町の中学校から十三名の代表が、大勢の聴衆を前に日頃の生活から得た体験を基にした発表を行いました。

横越中学校代表の今井奈緒美さんは、部活動と文化祭を通じて感じたことを発表し、奨励賞を受賞しました。彼女の発表内容について、次のとおり紹介します。

～人との関わりの中で見つけた楽しさ～

私は人づきあいが下手です。物事の説明が下手です。口べたなのでしょうか。それとも極度の緊張からくるものなのでしょうか。仲のよくない人とは全く話さないたちでした。たった一度の失敗で落ち込んでしまうこともありました。そのようにくじける自分を情けなく思ったこともありました。

「めんどうくさい」、「誰かがやってくれるだろう」という気持ちは誰もが持っている感情だと思います。でも、そのままで良いのでしょうか。動くことで自分を変えることもできるのではないでしょうか。そんなことを深く考えさせてくれたできごとがありました。

私が入っている家庭科部は、今年に入ってから例年と違うことに取り組んでいます。それは、今までの個人作品制作だけでなく、共同作品制作をすることです。家庭科部は三年生だけで、今年で廃部になるので、何か消えることのないものを制作しようと私達は取り組みました。

共同制作は、自分が受け持ったことを期限内で終わらせなければならず、遅れたら迷惑をかけたりして大変なこともありますが、励まし合えるなど、協力を深めることができる取り組みだと思います。「一緒にがんばろう」と友達に言われた時、とてもうれしく思いました。

去年の文化祭は、私には忘れられない思い出となりました。

私たちの学校の文化祭では、生徒会主催の演劇があり、私はその演劇の大道具の係をしました。初めのうちは、他学年の人だけなので私から話そうとはせず、上級生からの指示を待っていました。しかし、下級生が進んで仕事をしているのに、一つ年上の私が仕事をしていないことがとても情けなかったので、できるだけ自分で仕事をみつけてやろうと努力しました。「これをやらせて下さい」と自分で言って、前向きな態度で仕事ができるようになりました。

部活動の共同制作を通して、人と関わって何かをつくりだしていくことの中にこそ深い喜びや充実感があるということを学び、文化祭の演劇を通して、まず自分自身が勇気を持って一歩ふみだすことが大切だということを学ぶことができました。

「やる気」を出して何かをやるというのは、とても楽しいことです。「つまらない」よりは「楽しい」が良いとは誰もが思うのでしょうが、どのようにして「楽しくする」のかは人それぞれだと思います。私は部活動や行事で楽しさを学びましたが、学級や地域の活動で学ぶ人もいるでしょう。大切なのはその人の気持ちのもち方だと思います。おとなしい性格だからしかたないとあきらめたり、人まかせにしたりせず、他の人の中に積極的にとびこんでいくことが大切なのではないでしょうか。

（発表内容より一部抜粋）